

和歌山への私の提言

趙 冬駿

(経済学部 正規留学生) (中国)

はじめに

このレポートでは、主に日本事情授業についての感想である。約 15 回の授業を通して、日本の文化特に和歌山の文化をより深く勉強した。この授業は、発想力とコミュニケーションを非常に重視する授業である。留学生のほとんどは中国人だが、ほかに東南アジア、韓国、オーストラリア、フランス、アフリカの方々がいる。文化の違いがあるこそ、いろいろな視点から和歌山のイメージを捉えることができる。さて、和歌山をどうやって”若山”(若い和歌山)に変えるかについて書きたいと思う。

初めてこの授業を受けた時に、ほかのほとんどの授業みたいにただ教室で学習する授業だと思ったが、和歌山市駅や和歌山 J R 駅の発表があったことで、外で勉強する機会もあった。自分は和歌山 J R 駅に行ったことがないので、和歌山市駅だけの意見を発表する。

この前に発表会で発表した意見だが、ここでもう一度その意見をまとめてさらに新たな自分の意見を加えて述べる。



1. 新しい商店街を作る必要がある。日本全国高齢化と少子化がスピードアップで進んでいる前提で、地域の活性化を呼び返すことはますます困難である。人口の少ない和歌山では、内需が少ないから、ぶらくり丁みたいな商店街が減るのも意外なことではない。もし多くの店が減っていくなら、経済の悪循環に陥る可能性がある。ぶらくり丁を再建しても、何の意味もない。よって、斬新な商店街が必要になる。和歌山は田舎であるという事実があるから、和歌山県民、市民だけの購買力を期待しないほうがいいと思う。田舎でも田舎の魅力がある。それは自然の恵みである。和歌山は有名な観光地という印象をたくさん人々(主に外国人)に伝えてほしい。商店街を作る時点でも、和歌山ならではの店を並ばせないといけないのである。そういう特徴を強調する店は、伝統なお土産を売る店や和歌山の美食を集める店などはもちろん、外国旅客を一对一観光地へガイドするサービスがある旅行会社、和歌山の特徴がある服を購入できる店なども考えられる。ようするに、外国人観光客向けの商店街が必要になる。
2. 外国人向けの案内施設の増加を求める。各駅の構内でわかりやすいまたは目立つところに観光地の広告版を設置するのを望ましい。また、その説明文には、できるだけ日本語の下に英語と中国語の説明が書いてほしい。しかし、それでも足りないと思う。

駅内の各店の店舗前に観光地のチラシボックスを配置することも必要である。これらの提案が実施されることで、意図的に和歌山に旅行する外国人にとっては、とても便利である。しかし、和歌山すら知らない外国人の場合はどうだろう。より多くの人々を和歌山に招く重要なことは、メディアの宣伝である。一番コストが低い、しかも宣伝力が一番強いのはインターネットでの広告宣伝である。できるだけ海外のインターネットに観光地の広告を載せてほしい。そこで、和歌山の民間企業の協力が求められる。海外進出のある会社は、自社の商品やサービスを宣伝するとともに和歌山の魅力を強調する広告が出ると効果がある。



3. バスの路線や時間帯などを改めて考える必要がある。ここでは詳しく説明しない。発表会で各グループもうすでにこの問題について様々な意見が出たので、十分参考になると思う。



おわりに

以上の意見は発表会の補足として書こうと思う。まだ不十分なところがあるかもしれないが、一応ここで終わりたいと思う。和歌山が”若山”になることは夢ではない。内需に重点を置くのではなく、海外市場に進出することこそが、若々しいに戻る秘策である。